

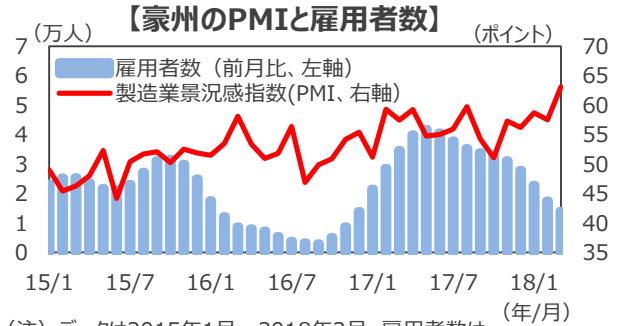
**今日のトピック**

良好な状態が続く豪州経済（2018年4月）

**景気の拡大と物価の安定が両立、金融政策は現状維持へ**

**ポイント1 上昇する企業景況感指数  
雇用も増加の勢いを強めよう**

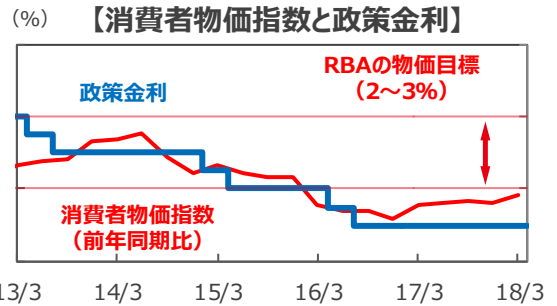
- 2018年3月の製造業景況感指数（PMI）は、過去最高の63.1となりました。豪州国内でのインフラ整備プロジェクトの進行等が、景況感の改善につながっていると見られます。
- 同月の雇用者数は、前月比1.4万人増となり、2月の同1.7万人増から鈍化しました。もっとも、企業の景況感が上向いてきていることを踏まえ、今後、雇用者数も増加の勢いを強める見通しです。



(注) データは2015年1月～2018年3月。雇用者数はトレンド値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 金融政策は中立を維持  
物価はRBAの目標値に未達**

- 18年1-3月期の消費者物価指数（異常値をつけた項目を除外したトリム平均値）上昇率は、前年同期比+1.9%と、豪州準備銀行（RBA）の目標レンジ+2～+3%を引き続き下回りました。
- RBAは、4月3日に開催した金融政策決定会合で政策金利を1.50%に据え置きました。フィリップ・ロウRBA総裁は、利上げの条件として失業率、賃金上昇率、物価上昇率のさらなる改善を挙げていますが、これら指標の改善ペースは依然、緩慢です。政策金利はしばらく据え置かれる見通しです。

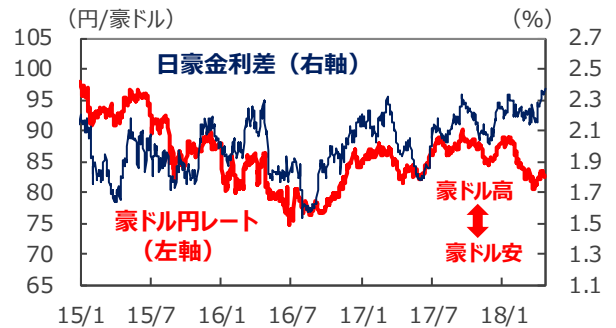


(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年1-3月期。消費者物価指数はトリム平均値。  
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年4月24日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう**

- 足元の豪ドルの対円相場は、持ち直しつつあります。シリア情勢の悪化懸念等が、やや後退したことによるものです。中東情勢や米中関係等には引き続き注意を払っておく必要がありますが、堅調な豪州景気、日豪間の金利差拡大等から判断する限り、豪ドル相場は今後も底堅い推移が見込まれます。

**【豪ドルの対円レートと日豪金利差】**



(注1) データは2015年1月2日～2018年4月23日。(年/月)  
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここも  
チェック!**

2018年4月17日 堅調さを維持する中国経済（2018年4月）

2018年4月 3日 豪州の金融政策は18会合連続の据え置き（2018年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。